

第2回石狩市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する 関係機関等協議会会議議事録

日 時：令和6年8月6日（火）

18時00分～20時00分

場 所：石狩市役所本庁舎4階
401・402会議室

出席委員	小森 享	委員（会長）（石狩市立樽川中学校校長）
	中西 章司	委員（副会長）（石狩市教育委員会学校教育部部长）
	西野 典男	委員（公益財団法人石狩市スポーツ協会専務理事）
	中川 文人	委員（石狩市スポーツ推進委員協議会会長）
	向田 久美	委員（アクトスポーツプロジェクト代表理事）
	西田 正人	委員（石狩軟式野球連盟副会長）
	小林 道晃	委員（石狩剣道連盟理事長）
	小原 江里	委員（石狩市PTA連合会副会長）
	斉藤 晶	委員（石狩市教育委員会社会教育部社会教育課課長）
	矢野 淳司	委員（石狩市健康推進部スポーツ健康課課長）
欠席委員	池田 幸夫	委員（特定非営利活動法人石狩市文化協会専務理事）
	松田 直貴	委員（石狩市民吹奏楽団団長）

事務局 石狩市教育委員会
学校教育部学校教育課長 森本 栄樹
学校教育部学校教育課学校教育担当主査 宮本 智徳

傍 聴 1人

議事内容

1. 開会

事務局_森本）皆さまこんばんは。大変お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。時間となりましたので第2回石狩市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する関係機関等協議会の方を始めさせていただきたいと思います。私、石狩市教育委員会学校教育課長の森本と申しますので、どうぞよろしくお願いいたします。今年2月に第1回目を開催してございます。その後、市の人事異動等、団体の役

員等の改選がございましたので、委員も変更となってございます。私の方から変更になりました委員につきまして、ご紹介させていただきたいと存じます。まず、市の教育委員会となります。学校教育部長の中西様でございます。よろしくお願いします。

中西委員) 学校教育部長、中西です。よろしくお願いします。

事務局_森本) 市の健康推進部のスポーツ健康課長の矢野様でございます。

矢野委員) スポーツ健康課長の矢野と申します。よろしくお願いします。

事務局_森本) 石狩市PTA 連合会副会長の小原様でございます。

小原委員) よろしくお願いします。

事務局_森本) どうぞよろしくお願いいたします。今年度につきましてはこの体制で進めさせていただきたいと存じます。なお本日、松田委員は所要のため欠席の旨、また、池田委員におかれましては30分程度遅れるとご連絡いただいておりますので、ご報告させていただきたいと思います。また、当協議会の会長、副会長におきまして、副会長が前任の市の生涯学習部長の蛭谷が務めさせていただいておりましたが、後任の当学校教育部長中西の方に副会長の旨お願いしたいと思っておりますので、ご了承をお願いいたします。それでは、このまま進行につきましては小森会長にお願いすることとなります。小森会長、どうぞよろしくお願いいたします。

小森会長) 改めまして皆さま、こんばんは。忙しい中ご苦労様です。本日も円滑に協議会を取り進めてまいりたいと思いますので、皆さまのご協力の方をよろしくお願いします。それでは、会議次第に従って進めていきます。

2. 協議

① 児童生徒、保護者及び教員のアンケートの実施及び結果について

小森会長) 第1回の協議会では児童生徒、保護者及び教員のアンケートを実施し、その結果を報告することとなっておりますので、事務局より説明をお願いします。

事務局_宮本) 事務局の学校教育課、宮本です。よろしくお願いいたします。私の方から部活動児童生徒、保護者及び教員のアンケートの実施及び結果についてご報告させていただきます。お手元の資料ですが、次第と委員名簿のあとに結果についての概要と、それぞれのアンケートに対しての結果・アンケート項目をお配りしておりますので、ご参考にしながらお聞きいただければと思います。

まず、今回のアンケートの内容ですが、対象としましては市内の小学3年生～中学3

年生の児童生徒及び保護者、そして市内中学校、義務教育学校後期課程に勤務する教職員に対してアンケートをとりました。実施期間は令和6年6月17日～30日の間です。実施方法としては、学校にアンケート協力依頼の書面を配布し、各自 URL 又は2次元コードから回答フォームにアクセスして回答する方式をとっております。なお質問項目につきましては、小学生・中学生・それぞれの保護者・教員別にして、皆さまのお手元にお配りしております。

結果ですが、回答者数としましては、小学3年生～小学6年生の児童に対しては6月30日現在の対象者1958名に対して213名の回答、回答率としては10.9%。同じく、小学3年生～小学6年生の保護者に対しては対象者1678名に対して364名の回答、回答率は21.7%。中学1年生～中学3年生の生徒に対しては対象者1495名に対して171名の回答、回答率11.4%。中学1年生～中学3年生の保護者は1370名に対して270名の回答、回答率19.7%。最後に中学校、義務教育学校後期課程を含む教職員156名に対して70名の回答、こちら44.9%の回答がありましたところです。

回答結果につきまして、順にご説明させていただきます。概要として説明させていただきますと、まずは小学3年生～6年生についてですが、こちらは傾向として6年生の回答が多かったところであります。中学校でやってみたいスポーツや文化活動というような項目がありますが、こちらについては、どちらかに偏るというよりも、やってみたい種目等が多種多様でありました。活動規模、いつ活動したいかとしては、学校がある日で週3日程度というような傾向でした。

次に、小学3年生～6年生の保護者に対してのアンケートの結果でしたが、約7割の児童が学校以外でクラブや教室等で活動を行っていたとの回答が得られております。内訳としては、サッカーや軟式野球、水泳、ダンス、ピアノ、書道というような回答がみられました。活動日に対しては、週1日で行っているところが多く、月謝については約半数が3千円～1万円となっております。その中でも一番多い回答としては、1万円～2万円という月謝の中で活動をされていることがわかりました。また地域クラブ活動に対しては、平日活動している種目、もしくは色々な種目を体験できる活動を求めているような傾向になりました。次に、地域クラブ活動に参加する場合の月謝としては、3千円以内という回答をされている方が約6割。5千円以内という回答をされている方が約85%という回答を得られております。そして、地域クラブ活動の活動場所に対しては、通学の範囲内を約8割以上の方が希望される傾向にありました。

次に中学1年生～3年生のアンケートの回答になります。こちらについては、中学1年生の回答が比較的多いというような傾向になりました。部活動の加入理由については、「小学校からやっていた」、「中学校でやりたかった」という項目、もしくは「部活動紹介が魅力的だった」という部分が主な理由として挙げられておりました。部活動の活動に対しては、「大会やコンクールで勝利や優勝を目指したい」という生徒が多かったですが、「初心者でも楽しめるような環境を求める」という生徒の回答も多く、こちらは2つに分かれている印象を得られています。また部活動に入らない生徒の理由としては、「すでに学校以外でスポーツや文科系活動を行っている」というところが理由として挙げられていました。

次に中学1年生～3年生の保護者に対してのアンケート結果としては、まず「部活動に期待すること」につきましては、多い順でいきますと、人間関係構築や達成感、責任感、体力向上ということを期待していると挙がりました。そして「部活動への心配や負担」という部分に関しましては、「特にない」という回答が多かったのですが、次にあげられています「活動場所への送迎が大変」「急に大会等への保護者の付き添い」こちらの部分が負担になっているという回答が得られています。そして現在の部活動費用は千円未満や千円以上、3千円未満という回答が多くあったところです。学校以外の現在加入しているクラブや教室等の月謝、こちらについては、3千円以上の項目の回答が8割ありました。そして、地域クラブ活動に参加に対しては「どちらでも良い」という回答が特に多く、その他「参加して欲しい」「できれば参加して欲しい」という回答が多くありました。活動内容については、現在の学校以外のクラブ活動や教室等と同じような活動を希望しているとなりました。そして、地域クラブ活動に参加する場合の参加費については、月謝として3千円以下を希望している回答が77%。さらに活動拠点については、通学している学校の近辺を求めているという回答が多く得られました。

最後に、中学校、義務教育学校後期課程を含む教職員に対してのアンケート結果ですが、こちらは現在受け持つ部活動の種目に対して6割以上の教職員が未経験の状態で行っていることがわかりました。さらに現在受け持つ部活動の種目に半数程度の教職員が元々これまで指導をする経験がなかったことがわかりました。部活動顧問の負担感ということについては、様々な意見や考え方があり、「負担になっている」、「生徒のためにやりたい」など、かなりのバラつきがみられている状態です。ただ、地域移行の方針に対しては、「賛成」と答えている回答が67%程度であり、理由としては、やはり負担が大きすぎるということが要因であるとアンケート回答のまとめで挙げられています。

全体的な傾向としては、小学生、中学生、保護者は、部活動と地域移行を比べてみると、基本どちらでも良いという考えでありました。保護者としては、地域移行というより、今まで通りの活動ができれば良いという印象を得られております。ただ、教職員としましては、負担が大きいののでその部分はできるだけ外してほしいというような意見が多いような印象が得られます。

事務局からは以上となります。

小森会長) ご苦労様でした。ただいま、事務局よりアンケート実施と結果について、説明がありました。本校も1年生が部活に75%程入っており、全国の平均より高い状況にあり、アンケート結果をみても先生方のアンケート結果が高くて良かったと逆にびっくりしております。この説明について、確認事項やご質問などがありましたら、ご発言をお願いいたします。

小林委員) 2点あります。

まず1つ目、回答者の数、割合が教職員でも50%に達していません。児童生徒に至って

はせいぜい20%というのとは、おそらく URL、二次元コードを示して「勝手に回答して」という形にしたからという気がします。だとすれば、真剣な内容なのにアンケートの仕方として妥当なのかという率直な思いがあります。

2つ目、地域クラブ活動に参加する場合の参加費は3千円以内が6割、つまり60%です。5千円以内が85%ということは、3千円以内が60%で残りの25%近くが3千円～5千円の間だったということでしょうか。

事務局_森本) まず回答率に関してですが、第1回目の時に札幌市の内容に準じて参考にしながら作っております。札幌市が昨年度行いました回答率を参考にみますと、中学校でも1割程度で、小学校も低かった結果となっております。本市の回答の結果では小学6年生、中学1年生が高く、中学3年生になると低いという傾向をみると、部活の対象となる世代が開けば開くほど回答率が低い傾向にあります。札幌市でも同様の回答率になっておりまして、部活動に関心のないお子さんや世帯は答えない傾向にあるのではないかと思います。

2点目につきましては、3千円が6割で23千円～5千円が残り25%という考え方で間違いありません。

小森会長) 他に質問、確認事項等ありましたらお願いします。

今、事務局から報告がありましたが、アンケート結果から児童生徒や保護者は、中学校の部活動と地域クラブ活動に対し、活動内容・費用・活動拠点など、求めていることは概ね、同じと捉えられるかと思います。「地域クラブ活動」は、本市にあって、受け皿（人材）の確保が難しい状況下もあり、慎重に進めていかなければ、児童生徒のスポーツや文化芸術の活動機会を奪いかねないことになってお思います。当初予定では、アンケート結果を踏まえ、事務局から推進計画の骨子を示し、皆様方の議論をいただくことと考えておりましたが、事務局とも相談し、現行の部活動について、負担に感じている教職員が多いという実態がアンケート結果から読み取れますので、本日は、現在の部活動の状況や教職員の負担感など、もう少し深掘して議論いただいた方が良く判断しました。このため、次第「2 協議 ② その他」として、部活動の現状など事務局から説明を受け、ご議論させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局より説明願います。

事務局_森本) 私達も、部活動地域連携・地域移行を行うにあたり、石狩管内市の状況や全国の状況を探っているところですが、なかなか難しい問題があり進捗していない現状を聞いております。今回アンケート結果からも、児童生徒・保護者につきましては現行の金額・活動場所・活動内容に部活動と同じ内容を求められています。一方、先生方は負担に感じている状況であります。まず部活動の現状や、どのように先生方の負担軽減を解消しているかを、一度お話をさせていただきたいと思っております。

令和6年度の中学校の部活動の実態についてですが、第1回協議会の時に令和3年度～5年度の3ヵ年分の資料をお配りしておりますが、令和6年度もまとまりましたので、こ

ちらの方も参考にさせていただきます。ちなみに、部活動加入率は、令和3年度の部活動加入率は65.8%、令和4年度は63.9%、令和5年度は62.2%と少し下がってきているとお話しさせていただきましたが、令和6年度は65.1%と少し上がってきております。65%台で推移しており、児童生徒数が減少してはいるが加入している生徒数は大きく変わらず、加入している種目につきましても大きな変化はないと分析しております。

次に「部活動の現状について」お配りした資料を説明させていただきます。「本市の部活動の状況について」ということで「(1) 今年度の部活動の実態について」は先ほど説明させていただきましたが、「(2) 合同部活動について」は3カ年分の石狩市の現状を示しております。団体競技については、1回目で説明した通り野球・ソフトボール・サッカーは人数が揃わないと単体でチームが組めませんので、それぞれ中学校同士で合同ということで部活動を組んで、中体連等に出場している現状であります。こちらは資料に、令和4年度～令和6年度の3カ年の現状を示しておりますが、やはり団体競技は単体の中学校では組めないということで、その都度、加入数などをみながら合同のチームを組んでいる実態がここ数年続いていることを現状として押さえておく必要があると思っております。

次に裏面の「2 他市の部活動の状況について」ですが、最近この地域移行を他の管内市を含めて議論をしている中で、拠点校方式というものが議論されております。この拠点校方式を部活動の地域移行の前段階として導入しているところが全国的にも増えてきております。今の石狩市の部活動については、それぞれ学校長が部活動の設置をしております。石狩市は、居住地によって学校を指定していますが、希望する部活動が通学予定の中学校にない場合、市の教育委員会に許可をもらって部活動のために指定外の学校へ通学する仕組みがあります。これは昔からありまして、例年10名前後の方が希望されています。実際、一覧にありますように、花川北中にサッカー部ありますが、通学予定の学校にサッカー部がないので通学する学校自体を変えて部活動を行っております。

ただ近年、拠点校方式というものが増えておりますが、石狩市はまだこの方式をとっておりません。これは、学校自体は住んでいる所の学校に通いながら部活動をする時だけ、別の学校に移動する方式であります。

一例として、小樽市では令和6年度から拠点校方式をスポーツ系、文化系ともに取り入れております。②にあります、サッカー・陸上・バレーボール・軟式野球それぞれ拠点校を設けております。今までの学校の歴史・状況などをみながら、それぞれ学校生活は指定された学校に通いながら、部活動するときだけ移動する仕組みがとられております。地域クラブ活動の前段階として拠点校方式を採用しながら、そのまま地域のほうにお願いすることをイメージしながら進めていくのが増えてきていることから、ご紹介させていただきます。

「(2) 合同部活動と拠点校方式の違い」を参考に載せております。今ご説明したとおり合同部活動は、学校は指定された学校に通学し部活動もその学校で活動して、人数が足りないなどの理由により合同で部活動を設置し大会に出場するものです。それぞれの学校で部員が1人でも顧問を置かなければならず、引率もしなければならないの

で顧問の先生の負担は出てきます。

拠点校方式は、学校自体は指定された学校に通いながら、部活動の時だけ別の学校に移動するということになります。この場合、顧問の先生は当該校だけでよく、先生方の負担軽減になるかと思われます。ただ懸念されるのは、通常の学校生活と部活動が切り離されますので、部活の先生が学校生活を見ていない生徒を受け持つことになる点と、移動を自分たちでする点が懸念させるところであります。ただ、地域クラブ活動になると移動も個人でする必要がありますので、そういうことも含めて前段階として取り入れているところが増えていると説明させていただきました。

「3 教員の負担軽減について」ですが、部活動指導員というものを当市は令和5年度より導入しております。今までは、部活動の顧問は基本的に教員ということになっておりました。石狩市は、外部指導者ということで顧問の他にサポートでボランティアとして入っていただいているところもありましたが、責任が顧問と格段に違うという現状がありました。部活動指導員は、国の方で平成29年度から制度化しております、市の会計年度任用職員として任用して学校の方に配置をし、顧問という位置づけで指導を行うということとしております。資料にありますように、令和5年度では3名、令和6年度には5名と増やしているところでございます。顧問として位置づけますが、部活動指導員1名と各学校の先生方も顧問として複数体制で部活動を指導することができます。また土日の大会等の引率もお願いできる等、顧問の先生方の負担を軽減していく取組みをしております。勤務時間は、平日2時間・休日3時間以内で週11時間以内となっております、報酬もボランティアではなく、国から2/3の補助が出ますが1時間につき1,600円支給しており、顧問としての責任もありますので、保護者への対応もしております。こういった部活動指導員については管内市でも取り組んでいるところが増えてきており、こういう形で教員の負担軽減をはかっております。ただ、令和5年度で3種目・令和6年度では5種目しか無く人材確保が難しい点ではありますが、学校側としては助かるという声を聞いておりますので、こういう方策を採りながら、教員の負担軽減・地域クラブ活動への移行を考えていかなければと思っているところでございます。

小森会長) 石狩市内で設置されている部活動の加入率が65%なので、スポーツをしている児童生徒は、もっと多いのではないかと思います。2番目の「合同部活動と拠点校方式の違いについて」ですが、石狩市はまだ合同部活動しか導入しておりませんが、拠点校方式もあるという説明でした。最後に「負担軽減について」ですが、昨年度までは5校中3校の部活動指導員の配置でしたが、今年度は平等に5校とも1名ずつ部活動指導員を配置しております。事務局からありましたように、ここの予算がもう少し付いて部活動指導員が増えることが望ましいのは間違いありませんが、人材確保が難しいという状況がございします。ここまで、先ほどのアンケートを踏まえてご意見・ご確認ございましたら、お願いいたします。

西野委員) 1つ目は、小樽市の拠点校方式について、移動の手段・経費等がわかれば教

えていただきたいのと、それが石狩市では可能なのか見通しを教えてくださいたいです。

事務局_森本) 小樽市の現状はわかりませんが、北見市など道内他市の状況でいえば、移動手段につきましては基本的には自分達で移動しなさいというのが条件になっているところが多いように思われます。地域クラブ活動になりますと移動についても課題になってくると思いますので、検証する意味でも拠点校方式を取り入れているのかとみております。本市で馴染むのかというと、花川地区は可能かと思いますが、厚田・浜益地区もできるのかという課題はあると思われます。また、団体競技で組めないところは拠点校方式も一つの方法としてあるのかと思いますが、現在の市の制度としては、指定外通学の仕組みも残っていますので、整合性やすみ分けも整理する必要があると思っています。ただ最近、拠点校方式を取り入れているところが増えていますので、議論できればと思っています。

中西副会長) 移動手段についてのご質問でしたが、地域によってはタクシーを出す、循環バスを出すなどを実証的にかもしませんが始めた地域も一部あったかと思っています。

西野委員) なかなかスポーツをしたくても、自分で移動しなさいと言われたらできない子ども達もいると思います。なので、なにか手立てを組んであげると良いと思いました。2点目が、教職員の負担軽減についてですが、働き方改革が進んで先生方の負担軽減が色々な面でされていると思います。昔は部活動に燃える先生がいて、自分の専門ではないが強豪校に視察に行つて指導方法などを身に付けて部活動の指導を行う先生もいたと思います。今もヤル気に溢れた先生がいるのではないかと思います。現状の学校現場のお話を少しお聞かせください。

小森会長) ありがとうございます。先ほどの教職員アンケートを見ていただくと、「部活動を指導してもいい」という回答を33%の方がしております。本校をみましても、部活動を指導したい先生が多く今のままでの活動で良いとも感じますが、やはり時間の面で、週1回・土日どちらかを休みにしても在校時間は60時間を超えますので課題があると思います。ただ石狩市をみますと、現在のところ指導できないという先生はいないですが、その先生達にいつまでも頼り続けるのは苦しいかと思っています。また全ての部活に経験のある専門の先生がいれば良いのですが。小原さん、いかがですか？

小原委員) 息子が部活に入っておりますので、色々と考えさせられます。先生方の負担も多いと思いますが、一週間の練習時間が少なく、テスト前は部活動停止になりますので、いざ試合に行ったら、動けないということが多いです。なんとかしてあげたいという思いがあり、もどかしさを感じます。

小森会長) 花川北中も部活動の顧問の先生は経験のある専門の方でいらっしゃいますか？

小原委員) 経験がある先生ではあります。

西野委員) 結局、残業時間が月 45 時間を超えないように、校長先生も先生方に配慮されていると思います。しかし時間的に短いと指導ができないということが起こっていると思われます。例えば、外部指導者のように土日に報酬を得ながら指導をしているのと同じように、残業という形ではなく、ヤル気に溢れた先生がいるならお任せするのは教育委員会としてはダメなのではないでしょうか。

中西副会長) 学校教育部長としてお答えしますと、世の中的に学校の先生の長時間労働を削減しなければいけないという現実がございますので、確実に配慮しなければいけないと思います。一方で、部活動に対して情熱を持っている先生のチャンス、力を発揮していただく場があることは重要で、子ども達にとっても非常に良い事ではないかと思います。個人的には、出来るだけ可能な部活動は残してあげたいと思っておりますが、なかなかもどかしい状況ではあります。

小森会長) 現実的な時間の面で言いますと、16 時半まで勤務時間ですが 18 時半まで部活動を指導して、部活が終わっても生徒が帰宅して電話が来るかもしれないので待つこともあり、1 日約 3 時間は超過している状況であります。部活を指導していたら 45 時間はあっという間に超過することになります。でも指導したい先生がいるのも間違いありません。

向田委員) スポーツ庁では、今回の外部指導者の制度の中で指導したい先生方等が部活動の地域移行を運営される団体などに所属や登録する形で、そこから報酬をいただくダブルワークを推奨していると思いますが、そういった形をとれば超勤の面ではある程度クリアできるのではないかと思います。

事務局_森本) 部活動として残してしまうと、ダブルワークという形は難しいと思いますが、向田委員が言われたように地域クラブ活動に先生が関わっていくのであれば可能だと思います。国の方で推奨しているのは部活ではなくて、地域クラブ活動の中で先生の立場ではなく関わった場合については、勤務時間外になるので報酬を支給するという事かと思いますが。

向田委員) 学校で部活動を今と同じような形式で続けることは勤務時間の問題が前提にありますので不可能だと思います。今までは教育の一環として部活動をとらえていたので、先生たちも子どもを教育するために身を挺して指導してきたと思いますが、そこが先生方の労働体制を遵守するよう国が変わった以上、部活動のとらえ方を教育

現場でするのではなくて、頭を切り替えなければならない時代になってきていると思います。さらに少子化で団体競技が組めないとなると、学校単位ではもうできないのが現実だと思います。アンケート結果での子ども達の色々な要望もわかりますが、現実問題できることと、できないことがありますし、お金の問題がありますので、石狩市として、ある程度目標というか、スタンスを決めて進めていくしか、方向性が見えず、まとまらない気がします。

小林委員） 私は剣道をしているのですが、向田委員が言われたようなことは敏感に感じています。今、市内で剣道部があるのが花川中学校だけで、他の学校に剣道部はありませんが、地域の少年団に所属して剣道をしている子どもはいます。花川中学校には、少年団にも加入している子、少年団に加入せずに部活動のみしている子がいますが問題になるのが、昇級審査・昇段審査です。昇級審査及び昇段審査は、北海道剣道連盟が授与しますので剣道連盟に加入していない中学校の部活動は昇級審査・昇段審査が不可能ですので、どうすればいいか、中学校から相談を受けています。また剣道は色々な大会がありますが、花川中学校だけでは組めないのも、他のチームと組むとなると、どこが音頭をとるのかという問題が出てきて、もう学校ではどうしようもない状況にあります。今のところは、剣道連盟が中心になって行っていますが、市としてある程度の方向性を持っていただきたいと思います。色々な種目がありますが全部変えることは絶対に無理です。みんなが出来るスポーツをみんなで作るのは無理ですので、ある程度市の方でビジョンを持って方向性を示すことが一番早いと思いますし、子ども達も安心するかと思います。

事務局_森本） 地域移行は非常に難しい問題ですので、石狩管内市、道外の状況等もみっていますが、静岡県では部活動を令和9年、10年に無くしてしまう方針を出しているところあります。西日本では、対外的には言っていないけれども、受け皿の問題もあるので部活動は残しますという声が聞こえてきております。石狩市でもこういう会合を持ち、皆さんのご意見を聞きながら方向を出そうと思っておりますが、非常に難しいというのが本音でございます。部活動を無くして地域移行を行うのか、部活動をある程度残しつつ地域で支えていく方法もありますが、さじ加減を間違えますと子ども達が活動する場がなくなってしまうことになりますので、地域にお願いするのであれば、お金や人材など受け皿の問題も出てきます。前回、受け皿に関するアンケートもニーズ含めて行った方がいいのではないかと意見もありましたので、受け皿になっていただく団体さんが、どのように捉えているのか声を聞かせていただきたいと思います。

小森会長） 市町村として動きだしても、人がいないという報道にも載っていましたが、受け皿となる団体の方にもアンケートをとった方が良いという内容でしたが、中川委員、どうでしょうか？

中川委員) スポーツ推進委員としての意見では、学校の部活動をどうするかの前に指導者がいるかどうかという面も含めて、スポーツ協会さんの方に指導を受けてもらえるかどうかのアンケートをとって、ある程度地域に移行できるのであれば、そこを中心に活動してもらった方が良いかと思います。学校の部活動のように週 3 日程度、15 時間という話がありましたが、週 2 日でも中身の濃い練習であれば良いのかと思います。スポーツですと、いたずらに 2 時間練習するよりも、集中して練習するのは違いますし、ダラダラと練習している団体があることも確かです。その中で、平日は週 2 日、土日に 3 時間練習する方が子ども達の身になる気がします。小学生に関しては、スポーツ少年団が受け皿的にはあると思います。

小森会長) 週多く活動できる人と少なく活動する人のアンケートはとれますか？

中川委員) とれると思います。

小森会長) 向田委員、アクトスポーツさんではアンケート回答は可能でしょうか？

向田委員) 活動している種目は、バドミントン・バレーボール・テニス・陸上・ダンスがありますし、その他に指導者としては、バスケットボール・野球もできますが複数校に行くのは厳しいと思います。なので、拠点校方式で一か所に集まって、そこに指導者を派遣する方法であれば対応はできる状況ではあります。

小森会長) 各スポーツ 1~2 名くらいなら派遣できる感じですね。そのようなことを、して欲しいということですね？

事務局_森本) そうです。それに伴って、費用と市としてどこまで負担できるのか、保護者の負担という課題もあります。今回、子ども達と保護者の意見を聞きましたが、受け皿となる方の意見も聞いて合わせないと、最終的な市の方針も出せないかと思います。場合によっては、スポーツ協会さん・文化協会さんへ加入の団体さん、他のスポーツクラブさんの意見を聞いた方が方向性は出しやすいと思います。

小森会長) 西田委員、いかがですか？

西田委員) 軟式野球連盟です。加盟する少年団はそれぞれ学校単位で指導者もいて活動しております。中学校は資料にあるように合同になり、今年の新人戦は試合がない状況であります。アンケートを出せば返ってくると思います。質問ですが先ほど、教員の時間外は月 45 時間というのは前から決まっていることでしょうか？

事務局_森本) 目安としてあります。

西田委員) 当然、部活動を担当しますと超えてしまうという話だと思いますが、そもそも先生に部活動をお願いすることが基本的には無理な話になります。その話を先にしていただけたら良かったと思います。

事務局_森本) 月 45 時間、年間 540 時間を超えて部活動・生徒指導をされている先生方は実際にいます。

西田委員) 小学校・中学校も一緒ですか？

小森会長) 小学校は部活動がないので割と良いです。月 45 時間を絶対超えてはいけないという話ではありません。

中西副会長) 今はそれ以上なので、まずは 45 時間を目指しましょうという目安の話です。先ほどダブルワークという話が出ましたが、すでに先生という立場を変えてスポーツ団体で取り組んでいる方もいます。それが増えるのが国としては理想ですが、現実的に報酬をもらう時に、本当に払える団体なのか、結局、保護者が負担することになるのではないかと思います。本来、国が移譲したいのであれば財源を振って、なんとかすべきだと思っていますが、なかなか追いついていかない現状があります。現実的に国は部活動支援員に財源手当てをされており、活動自体を地域に委ねているのではなく人の手当てを地域に委ね、人材を学校に配置する方にしか財源がありません。市町村としては、まずはそちらに乗っかるというのが基本的なスタンスであるため、今年度 3 人から 5 人に増やした経緯があります。持続的な活動を続けるための財源をどうするかという問題を国がしっかりと考えて欲しいと思っています。

向田委員) 今まで支払っていた教員の超過勤務手当の財源はどうなっているのでしょうか？地域に移行するのであれば、その先生達に支払われていた部分を充てることもできるのではないのでしょうか。ただ地域にお願いしますと言われても、スポーツはお金がかかるものですし、場所代・スポーツ用品もかかります。また指導者も、資格を取って、責任をもって安全管理をして指導していますので、指導する人間に対しても国として考えていただきたいです。

中西副会長) 地域移行とは言っていますが、正直切り捨てではないかという印象はありますので、国にはしっかりと求めていくところかと思います。

事務局_森本) 時間外の話ですが、教職員の時間外は特殊で、給与月額の 4%と全職員一律で決まっております。今、中央教育審議会で率を 4%から 10%に上げようとしている動きがあります。通常であれば、労働の対価として支払われるものですが、教育現場は少し特殊で違うというところをご理解いただきたいです。

中西副会長) 種目によって違いがあるので、一律に考え方をという話もありましたが、今の時点では違いがあって仕方ないと思います。個人種目もチームスポーツもありますし、それぞれ地域によって環境・歴史がありますので、なかなか一律に同じという訳にはいかないと感じます。これからまた調査を行えば、違いという部分は出てくるかと思いますが、今の時点で全部一律というのは無謀である気がします。

事務局 森本) 受け皿側・人材のアンケートを行って、その結果を示したうえで方向性をどうするか考えたいと思います。国としても方針が定まっておらず、地域の実情に合わせて決めなさいということで、地域の方も困っているのが現状ですので、道教育委員会を通じて全国の状況・動きを教えていただけるようお願いしています。次回はその状況を含めて、アンケートの結果も出しながら、皆様のご意見をいただきながら方向性を決めていきたいと思っております。難しい課題だと思っておりますが、引き続きよろしくお願いいたします。

小森会長) よろしいでしょうか。よければ事務局が推進計画の骨子をまとめて次回にお願いします。では「次第3 その他」ですが、事務局で何かありますでしょうか。

3. その他

事務局 森本) 受け皿側へのアンケートについてですが、池田委員、西野委員に傘下の団体の方へのアンケートを相談させていただき、その結果を示したいと思います。その他、ホームページなどに出しながら団体の声が上がるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。また、アンケートがまとまりまして、全国の状況がわかりましたらご案内差し上げるということで、よろしくお願いいたします。

西野委員) 当初、来年の3月までに、ある程度の方向性を出すお話だったと思いますが？

事務局 森本) 当初予定としては、来年3月までに方向性を出す考えでいましたが、やはり全国の状況をみながら、場合によっては来年の途中までということもあり得るかと思っております。私たちが心配しているのは、石狩市で方針を出した後に全国で違う方針が出てきて方向転換せざるをえない状況になることですので、子ども達が困ることが無いよう、色々な状況をしっかりとみながら対応していきたいと思っておりますので、当初の予定と変わることがあることはご了承くださいたいと思います。

中西副会長) 今の時点では、年度内に固まった方針は作りえないと思っております。当面は国の動きをみながら、その先を継続的にみていかなければと思っております。

4. 閉会

小森会長) 以上をもちまして、会議を終了します。ありがとうございました。

令和6年9月6日 議事録確定

石狩市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する関係機関等協議会

会長 小 森 享